

「旅立ちのとき」



【第77回卒業証書授与式 式辞】

ここ数日、御津山にそそがれるうらかな春の日差しと、頬をなでるあたたかな潮風。校庭の桜もつぼみをつけはじめ、着々と花開く準備をしています。その様子はまるでみなさんの三年間の成長を表しているかのようです。

本日ここに、豊川市副市長 桑野研吾 様、学校運営協議会委員をはじめ地域の方々、保護者の皆様のご臨席を賜り、御津中学校第77回卒業証書授与式を挙行できますことを心より感謝申しあげます。ありがとうございます。

あらためて、115名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

さて、突然ですが、私はこの御津町が大好きです。38年の教員生活の中で南部小学校と御津中学校を合わせて、たった4年の勤務でしたが、明るく素直で、どんなことにも夢になる生徒。子どもたちのために、学校のためにと協力を惜しまない保護者・地域の皆様。北部には山、南部には海と自然いっぱいの校区。そして、それらを一言で見事に表した合言葉、「光る海みと」。

ところで皆さんは、御津の「光る海」をじっくり見たことはありますか。私はつい先日、海岸から御津の夜明けを見てきました。朝日が顔を出すと、海がきらきらと輝き始め、次第にその輝きが自分の方に近づいてきます。何色にもきらめく水面に言葉が出ないのですが、心には「一日が始まるぞ。さあ、はりきっていこう」という思いがふつふつと沸き上がってきました。

昼間や、夕方の「光る海」は、人をどのような気持ちにさせてくれるのでしょうか。

ん、私の手元が気になりますか。式辞といえば（奉書型を見せながら）

多当紙の中から取り出した、長い紙を見ながら話すのが日本の伝統であるのに、タブレット型パソコンを片手に話すのかと。

4年前に導入されたタブレット。1年生の頃から授業の中で活用してきました。総合的な学習の時間や社会科で情報の検索、自分の考えを発表するためのプレゼンテーション資料の作成、保健体育科の授業では自分の動きを確認するための動画撮影など、学びの道具として欠かせないものとなりました。そして本年度は、進路を決める際、ほとんどの学校でwebによる出願となり、タブレットやスマートフォンはますます生活の中に浸透してきています。ちなみに、この式辞は自分で書いたものです。2学期終業式のようにチャットGPTでつくったものではありません。

生成AIの急激な発達に伴い、世界中の情報を瞬時に手にし、自分の思うような形に加工して発信できる、仕事によっては発信しなければならない時代がやってきました。そこで、皆さんにとって今以上に大切なことは「自分で答えを出す」「自ら決定する」ことで

す。答えを出すために必要な情報はいくらでも手に入ります。生成AIに「〇〇するにはどうしたら良い」と呼びかければ「こうしたら良い」という返事がくるでしょう。しかしそれは答えではありません。たくさんある解決方法の中の一つが示されただけです。それらを受け、目的を達成するためには何をすべきかをじっくり考えて答えを出した上で、動き始めなければ前には進めないのです。

終わりにになりましたが、保護者の皆様、本日は誠にとおめでとうございます。義務教育の9年間、感染拡大防止への心配りをはじめ、様々なご苦労があったこととお思います。そのご努力によりまして、お子様は立派に成長されました。すばらしい感性と豊かな心をもったお子様をお育ていただいたことに心から感謝いたします。

そして、長きにわたり本校の教育に温かいご理解とご支援をお寄せいただいた地域の皆様に、お礼を申し上げますとともに、これからも子どもたちを、「地域の宝」として末永く見守っていただけますようお願い申し上げます。

さあ皆さん、いよいよ旅立ちの時です。4月からのそれぞれの学びの場では、新しい出会いが待っています。新たな課題にもぶつかります。御津中で3年間学んだ皆さんは、これからの人生において、目標＝夢をもつことの大切さを知っています。夢の実現のためには「今、自分が何をすべきか」を考え、仲間と力を合わせて粘り強く実行する力ももっています。でも、もし迷うようなことがあったら御津中に来てください。そして、体育館のシンボルマーク「光る海Mito」をゆっくり、ゆっくり眺めてください。

卒業生の皆さんが、それぞれの道で、より一層光り輝かれることを心からお祈りしています。

以上 式辞といたします。

令和6年3月6日 豊川市立御津中学校長 白井 博成



光る海、かがやく緑。
しおかせ頬をなで、
木々の芽吹きいとおしく。
ここが御津わがまち

平成十一年 市勢要覧より

